

平成 17 年 12 月 7 日

「1707 富士山宝永噴火」報告書案について

分科会主査 下重 清

当分科会が取りまとめた別添報告書案は、第 9 回小委員会において審議・了承頂きました。本委員会においてもよろしくご審議頂きますようお願い致します。概要は以下のとおりです。

第 1 章 富士山の山としての特性

富士山は、フィリピン海、ユーラシア、北米プレートという 3 つのプレート境界に位置する我が国最大の玄武岩質の陸上成層火山である。富士火山は約 10 万年前に誕生し、最近 8000 年間は主として山体斜面に溶岩や火山灰などの噴出物を堆積させる中～小規模の噴火を繰り返して成長してきた。歴史時代の噴火としては貞観 6 年（864 年）の噴火が宝永噴火と並ぶ最大規模のもので、溶岩流が北麓の湖を分断して今の精進湖と西湖を作った。

第 2 章 宝永噴火の推移と噴出物

宝永 4 年 11 月 23 日（1707 年 12 月 16 日）、富士山南東斜面より大噴火が起こり、以後 12 月 8 日まで 16 日間断続して大量の火山礫や火山灰を噴出し、一部は 100 km 以上離れた房総半島まで降り注いだ。しかしながら、一次被害では、死者をはじめとする直接的な人的被害についての記録はいまのところ見つかっていない。登山の禁止された冬季であったことや、富士山の裾野が広大で、かつ噴火口近くに集落がなかったことなどがその要因であったと考えられる。

第 3 章 時代背景とファーストインパクト

噴火が起こった当時は 5 代将軍綱吉の治世末期で、元禄期の経済の発展の後を受けて景気が落ち込んできた時代であった。幕府や地元小田原藩が調査団を派遣する一方、被災者の訴願活動も次第に活発化した。

第 4 章 一次災害への国家的対応と社会的影響

未曾有の火山災害に直面して、幕府にも藩にもマニュアルはなく、最初お救い米の支給などの対応を行ったが、各藩の対応には限界が出てきたため、幕府による組織的な対応が図られた。

噴火の翌年の宝永 5 年閏正月、被災民救済と被災地復興費を名目として全国に高役金を賦課するとともに、降灰量の多かった駿河国・相模国の被災地約 6 万 6000 石の村むらを幕府直轄地に編入し、幕府代官による被災民救済を実行に移した。また、火山灰流入で河床の上がった酒匂川の河ざらい工事を、外様大名らに費用を拠出させるお手伝い普請で実施した。

第 5 章 長期化する二次災害への対応

厚く降り積もった火山灰は降雨のたび毎に崩落して土石流や泥流となって川を流れくんだり、河道閉塞や河床上昇を引き起こし、特に酒匂川下流の足柄平野では、前述の河ざらいにもかかわらず、噴火後 100 年近くにわたって洪水・土砂災害が繰り返し発生した。

堤防の修復や耕作地の再開発（砂除け）により次第に復旧が進んだが、噴火直後に幕府領とされた旧小田原藩がすべて小田原藩領に復帰したのは 75 年後であった。

おわりに（教訓）

- ・過去の噴火から見ても噴火の形はさまざまなものがあり得るが、その点も認識した上で、ハザードマップを活用することが重要である。
- ・地震などの前兆に注意すべきであるが、予知できない場合もあり得るので、頼りすぎてはならない。
- ・溶岩や降灰などの一次被害のみならず、堆積した降下物による二次被害にも注意すべきである。
- ・被災地の復興にあたっては、当局者のみならず、自治体の枠組みを超えた現地被災者の意欲的な取り組みが必要である。

1 分科会の開催状況及び報告書作成スケジュール

H16. 4.19	第1回開催（内閣府）	構成、執筆分担等の検討
H16. 5.17	第2回開催（内閣府）	構成、執筆分担等の検討
H16. 9.27	第3回開催（内閣府）	構成、担当原稿の検討
H17. 2. 4	第4回開催（内閣府）	担当原稿の検討
H17. 4.18	第5回開催（内閣府）	担当原稿の検討
H17. 9. 2	第6回開催（内閣府）	報告書案の検討＜最終回＞
H17.10.17	第9回小委員会で報告書案を審査＜了承＞	
H17.12. 7	第6回専門調査会で報告書案を審査	

2 分科会委員

○下重 清	東海大学文学部非常勤講師
荒牧 重雄	山梨県環境科学研究所所長
井上 公夫	日本工営（株）コンサルタント国内事業本部副技師長
小山 真人	静岡大学教育学部教授
鎌田 浩毅	京都大学大学院人間・環境学研究科地球環境動態論分野教授
久保田昌希	駒沢大学文学部歴史学科教授
松井 宗廣	財団法人 砂防・地すべり技術センター総合防災部長
松尾美恵子	学習院女子大学教授
宮地 直道	日本大学文理学部助教授

（○：分科会主査）

3 その他報告事項

1707 富士山宝永噴火

報告書案

平成十七年十二月

中央防災会議
災害教訓の継承に関する専門調査会